

平成 14 年 2 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社ディスコ  
代 表 者 名 代表取締役社長 溝呂木 斉  
(コード番号 6 1 4 6 東証第一部)  
問 合 せ 先 取締役 経営企画室長 中山 勉  
(電話番号 03-3743-0111 (代表))

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 13 年 11 月 7 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日)  
(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 13 年 11 月 7 日発表)	31,000	1,840	1,430
今回修正予想 (B)	30,000	2,800	2,200
増減額 (B - A)	1,000	960	770
増減率	3.2%	-	-
(ご参考) 前期 (平成 13 年 3 月期) 実績	74,112	21,545	11,811

2. 当期の業績予想数値の修正 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日)  
(単位: 百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 13 年 11 月 7 日発表)	20,330	470	70
今回修正予想 (B)	19,000	900	300
増減額 (B - A)	1,330	430	370
増減率	6.5%	-	-
(ご参考) 前期 (平成 13 年 3 月期) 実績	57,465	17,411	9,201

### 3. 理由

国内外の半導体メーカー、電子部品メーカーによる半導体や電子部品の生産・在庫調整にはまだら模様ながら一部進展が見られ、ユーザーによっては、極端に落ち込んでいた生産稼働率に改善の兆しが見られるようになりました。このため第3四半期（10～12月）には消耗品である精密ダイヤモンド砥石の受注が前四半期比回復に転じました。

また、1月以降、海外企業の多くが新事業年度入りしたこと等に伴い、前四半期比で受注が減少を続けていた精密研削切断装置に対しても、一部のユーザーより引き合い回復の動きが見られるようになりました。

しかしながら、ユーザーの設備投資抑制という基本的トレンドにはほとんど変化がなく、弊社の主力製品である精密研削切断装置の受注には、まだ回復の兆しが出てきたとは言えないことから、平成13年11月7日発表の通期の売上高及び利益見通しを上記のとおり修正するものです。

以上